

社会の出来事に対してもった考えを練り上げていく新聞の活用

指定校 1 年次 松本市立山辺小学校 伊藤 茂

授業実践者 塚平 麻紀子

1 本校のNIEの現状

本校の子どもたちの中で新聞を開くといえば、テレビ番組欄かスポーツ欄がほとんどである。ほとんどの子どもたちには、新聞を読むという習慣があまりない。その中であって授業学級の子どもたちは、5年次国語の「続けてみよう」という単元を学習した際に、新聞スクラップを始めた。週に1つ好きな記事を見つけてノートに貼り、その記事の内容をまとめてもいいし、その記事についての感想でも良いので書いて担任に提出するというものである。さらに、この活動が半年経過したところで、毎日朝の会で2人ずつどんな記事を選んだのかを発表し、聞いていた人からそれについて意見をもらうという活動も始めた。子どもたちの中には1面の記事をスクラップする子どももいたが、地域の話題を扱った記事や写真、スポーツの記事を選ぶ子どもが多かった。

教師の中には以前より新聞記事を授業に取り入れている者もいたが、多くはNIE自体を知らなかった。しかし、いろいろな新聞を取ることができることを聞いて、新聞を読んで授業で使える記事などを探してみたいと考え、朝、休み時間、放課後と時間があるときには新聞を読むようになった。

まず、子どもたちが少しでも新聞を開く機会をつくろうと考え、新聞スクラップブックを4つのクラスに配布した。使い方は新聞の自分の好きな記事を選びスクラップブックに貼り、その記事についての感想を書くというものである。さらに、新聞に対する興味関心を高めるために、さまざまな授業において従来の教材とともに新聞そのものや新聞記事を積極的に取り入れていこうと考えた。それにより、児童の目が少しでも社会に向けられることが期待できる。

2 NIE実践のねらい

本校では、学校教育目標「共に生きる力を培う」の具現化に向け、学習指導を見返し改善に努めている。そして、自尊感情を高め、自己の「生」を大切に意欲的に生きると共に、他の存在の尊さにも気づき互いに尊重し合って、よりよいものを求め高め合って生きていこうとする力を培いたいと願っている。そのために、「子どもたち一人ひとりが願いをもち共に学ぶ喜びや達成感が感じられる授業づくり」を目指してきた。

本校の子どもたちの実態をみると、素直な児童が多く、元気いっぱい外で遊んだり額に汗して働いたりすることができ、与えられた課題に対しては前向きに取り組める。反面、主体的に課題を追究し自分の考えを自分の言葉で表現することは十分でなく、特に根拠を明らかにして説明することが苦手な傾向が見られる。よって、友の意見を取り入れて深め合ったり新たな課題や問題点を見出したりすることができにくい。

これまで、本校ではこれからの時代を生き抜いていくために児童につける力として、自ら考え、自ら学ぶ力の育成には力を注いできたものの、社会と向き合い、自分の状況を把握して、これからの行為を考える経験を本校の子どもたちに十分にさせてこなかったのが現状である。そこで、社会と向き合う第一歩として新聞に親しむということはどうかと考えた。

本年度の研究として、まず子どもたちに新聞に親しませたいと考えている。そのために、新聞記事のスクラップづくりをしたり各教科において教材として新聞を積極的に取り入れたりしてみる。さらに、すでに新聞に親しんでいる授業学級を窓口として5年生の時から続けてきた新聞スクラップの活動を新聞切り抜き作品の作成という活動につなげることで、新聞に興味関心をもち、新聞を読み解き、事実を根拠として自分の考えを練り上げることのできる子どもの育ちを願うものである。

3 研究の概要

(1) 実践した教科等

総合的な学習の時間 6年2組

(2) 新聞の提供状況

- ・毎月〇～〇紙、5月～3月の期間読めるように購読計画を作成した。
- ・子ども新聞は主に授業クラスに置き、掲示した。さらに、これはという記事がある時は教師が朝の会等でその記事を読んで聞かせた。
- ・子ども新聞以外は職員室に新聞を読むコーナーを作りそこに置くようにして、教師が自由に読めるようにした。
- ・新聞を読むコーナーに置いた新聞はその後、家で新聞を取っていない児童のための新聞スクラ

ップ用に各クラスに置くようにした。

(3) 新聞を取り入れた実践をする上で特に工夫したこと

総合的な学習の時間において、探究的な学習に新聞を結びつけるようにする。そして、自ら課題設定し、情報を集め整理してまとめるということを経験させる。

つまり、特に授業クラスの総合的な学習の時間は、昨年度から続けている新聞スクラップの活動から子どもたちが自ら興味をもったことを活かして、授業を仕組むようにする。また、国語や社会の授業においても朝の会で発表される記事の内容によって、授業に取り入れることができる物があれば積極的に教材としていくようにする。

1 子どもの姿

- (1)新聞スクラップを作ることによって新聞に親しんできた。
- (2)新聞記事には様々な事実が書かれていることに気づいた。
- (3)記事の内容を正しく読むことが大切だと考え始めた。
- (4)身近なこと（地域のできごとなど）には目が向くが、日本全体に関わる大きな記事にはなかなか目が向いていかない。



2 手だて

- (1)新聞を切り抜き、その記事についてまとめ、発表する活動が続ける。
- (2)記事に書かれている内容を読み取る経験を積む。
 - ・ 大事な文や言葉にラインを引きながら記事を読む。
 - ・ 友達と自分の読み取りの相違点を比較する。
- (3)グループ活動を仕組み、友の意見を聞けるようにする。
- (4)新聞記者から新聞切り抜き作品について講義を受ける。
- (5)新聞切り抜き作品に応募する。



3 願う姿

- (1)新聞を通して社会の出来事に目を向ける子ども
- (2)新聞の情報を正しく読むことができる子ども
- (3)事実を基に自分の考えを練り上げる子ども

4 N I E 実践の内容

(1) 実践での子どもの姿（視点 A）

① 国語の「続けてみよう」の学習から（家庭学習、朝の会）

6年2組では、5学年国語の「続けてみよう」の学習から、何かを続けていくことは大切であると考え、新聞に注目した。まずは新聞を開く習慣が大切であるという考えから、週に1回、家庭学習において興味のある新聞記事を選び、切り抜き、内容をまとめて感想を書く活動を始めた。子どもたちはあまり抵抗なく新聞を開き記事を選んだが、年間通して同じような内容の記事を選ぶが多かった。特に多く選ばれた記事は好きなスポーツの記事や、きれいな写真とともに地域の出来事を伝える記事である。その反面、一面に載っているような時事問題についてまとめる子はほとんどいなかった。

教師は「続けること」と「新聞を開くこと」を重点に置いていたので、子どもたちの新聞を読む姿を認め励まそうと朱書きで返事を書いた。しかし、選ぶ記事やその記事のまとめについてはほとんど触れなかった。そのため、まとめる内容に大きな個人差が生まれてきた。その中には、「続けてみよう」の学習から「いつ・どこで・誰が・何をしたか」を意識してまとめる子もいたので、その姿を皆に広めた。さらに、「自分の思いを相手に伝える」ということを意識しながら自分が選んだ記事をまとめていってほしいと願って、朝の会において「新聞発表」の時間を設け、毎日二人ずつ、選んだ記事について発表するようにし、その発表に対し子どもたちが感想を言うようにした。すると、子どもたちは発表する機会を与えられたことで、読めない漢字を調べたり写真を見やすいように貼ったりするなどの工夫する姿が見られるようになった。しかし、その発表に対する感想は「そこに行ってみたいです。」とか「それを食べてみたいです。」というものが多かった。

② 一面の記事を丁寧に読もうとした子どもたち（朝の学級の時間）

1年間、新聞の切り抜き活動が続けてきた子どもたちだが、選ぶ記事が「4コマ漫画」や「スポーツ」などが多かった。そこで、教師は前々から時には一面の記事にも目を向けてほしいと思っていた。そんなとき、目にとまったのが信濃毎日新聞一面の「九日間 耐えた」というインパクトのある見出しのついた記事（祖母と孫が震災から九日経った3月20日に救出されたという記事）だった。この記事を用いて「記事を読んで見出しをつけよう」と提示すれば子どもたちは興味を持って丁寧に記事を読むのではないかと考えた。そこで、見出しを消した記事を用意し、班毎話し合いながら見出しを考えるよう皆に投げかけた。そして、1回みんなで読み、大事だと思うところに線を引いてみるよう助言した。

すると1班では、

- A:「9日ぶり」と「九日間」があるよ。
B: わかった。この9日は大事なんだよ。
C: あと、大津波も大事な気がする。
D: 大津波から助かったことが書いてあるから・・・
A: よい言葉ないかなあ。（辞書で言葉を探し始める）
A: 生還はどう？
C: どういう意味？（みんなで生還の意味を確認する）
D: よいと思う。
B: じゃあ、「大津波 9日ぶりの生還」にする？
A: ちょっと長い様な気がする。この枠に入らないでしょ。
D: 大津波はなくても津波のことだってわかるから取ろう。

のように話し合いが行われ、考え出した見出しは「9日ぶりの生還」である。

子どもたちは、見出しを考えるという目的があることで、記事の内容をしっかりと読み取ろうという意識が生まれ、丁寧に記事を読む姿につながったようだ。そして、「一面の記事は難しいと思っていたけど、しっかりと読むとどんなことが書いてあるかわかった。」と感想を述べた。また、大切だと思う文や言葉に線を引くという手だては視覚的にもわかりやすくなり、大事な文同士を読み比べるにも有効であった。

③ 浜岡原発の記事から事実を読み取ろうとした子どもたち（総合的な学習の時間）

4月、新聞では東日本大震災の様子を伝える記事が多かった。しかし、子どもたちが切り抜いてくる記事には震災に関する記事は少なく、今までとあまり変わらないものだった。教師はもっと社会の動きに目を向けてほしいと思っていたとき、Sさんが「浜岡原発停止」の記事を皆に発表した。そして、最後にSさんが「浜岡原発は止めない方がよい。」という感想を言ったとき、首をかしげた子が何人かいた。そして、Sさんの発表に対してMさんは「私は、安心だから止めた方がよいと思いました。」と感想を発表した。すると、Mさんの感想にうなずく子と「え～」とつぶやく子がいた。その子どもたちの反応を見て、それまで原発の記事を切り抜いてくる子はほとんどいなかったが、原発のことは知っており、自分の考えを持っていると感じた。そこで、「止めた方がよい」か「止めない方がよい」か聞いてみると、「止めた方がよい」が14名、「止めない方がよい」が12名であった。これをきっかけとして、それぞれの意見が活発に出始めた。しかし、それらの意見は「たぶん」「きっと」といった言葉が多く、事実に基づいた意見は出されなかった。ここで、教師は「浜岡原発のことが書いてある新聞記事読んだことがあるか」と聞いてみた。すると、「読んだことがない」という答えがほとんどだった。浜岡原発についての事実を基に自分の意見をもってほしいと考え、浜岡原発について書かれた記事を班毎で集めてみようとして提案した。すると、一週間でたくさんの記事を集めることができた。次に、その記事の見出しから「原発を停止すると良いこと」「原発を停止すると困ること」に分けて模造紙に貼る活動を提案した。記事を整理する中で、「見出しだけではよくわからない」という声が子どもたちの中から出てきた。そこで、内容を読めそうな記事は内容を読んで分類するように促した。すると、分類できそうな文を見つけてサイドラインを引き始めた。

この一連の活動を通して、子どもたちは、原発を停止した場合の良いことと困ることの両方の事実が書かれていることに気づいていった。しかし、自分が最初にもった意見に都合の良い文章だけ読み取っている子もいた。

④ 記事には様々な事実が書かれていることに気づいた子どもたち（朝の学級の時間）

新聞記事は様々な視点から見た事実が書かれていることに気づいてほしいと願い、「県民『電力は大丈夫か』」の記事を子どもたちに提示した。すぐに子どもたちは、見出しから「原発を停止すると困ることが書いてある」と口々につぶやいた。そこで、ペアでリード文や本文を原発の停止による「良さ」と「困ること」という点から読み取り、文を色分けしてみるよう発問した。すると、子

どもたちの中から「あれ」というつぶやきが聞こえてきた。「困ること」ばかり書いてあると予想していたようであるが、実際に色別にしていくと原発を止めることの良さが意外と多く書かれていることに気づいたのである。そして、どのように色分けしたか確認すると、ほとんどの子どもたちが同じように色分けできていた。

子どもの日記

浜岡原発の新聞についてやりました。まず記事が配られました。見出しには「県民大丈夫か」という記事でした。僕はこの記事は、「困る」という記事だと思いました。でも、文章の中で「困ること」「良いこと」に分けてみると、意外と「良いこと」もたくさんありました。ぼくは、「困ること」の記事だと思っていたのに、「良いこと」もたくさん書いてあってビックリしました。

この活動を通して、新聞には1つの視点から見た事実ばかりが書いてあるわけではないということに気づくことができた。そして、文章の意味・言葉を大切に読み取っていくとわかる事実がたくさんあることにも気づくことができた。

⑤ 新聞記事から得た事実を基に討論した子どもたち（国語の授業）

国語で「討論会を開こう」の学習の際に討論のテーマを決めようとしたとき、子どもたちから「浜岡原発」について取り上げたいという意見が出た。そこで、「浜岡原発は停止した方がよいか」をテーマに討論会を開くことにした。まず、集めた記事の中から、停止すると良いことと停止すると困ることを見つけ、線を引き、自分の意見の根拠を採るように助言した。そして、停止した方がよいと考えるグループ(A)と停止しない方がよいと考えるグループ(B)と討論会を聞くグループの3つのグループに分け、A グループと B グループには意見を聞くグループに自分たちの主張をより訴えるための作戦会議をもつようにし、討論会を開いた。

〔初めの主張〕

「停止した方がよい」グループ

- ・私たちは、浜岡原発を止めた方がよいと思います。理由は、浜岡原発がある地域では、30年以内に87%の確率で地震が起こると予想されているからです。もし大きな事故があったら危ないので止めた方がよいと思います。

「停止しない方がよい」グループ

- ・私たちは、浜岡原発を止めない方がよいと思います。理由は2つあります。1つ目は、浜岡原発を止めると必要電力に対する余裕がなくなり、大規模停電が起こる危険があるからです。もう一つは、余裕のある電力を分け合っているため、影響が全国に及ぶからです。

初めの主張を発表したあと、聞くグループからそれぞれのグループに質問があり、その質問に答えたあと、聞くグループからの質問や相手のグループの主張を踏まえてさらに主張を練り直し、最後の主張を発表した。

〔最後の主張〕

「停止した方がよい」グループ

- ・浜岡原発は止めた方がよいと思います。87%の確率で地震が起こるので、その地震に備えて、やっぱり止めた方がよいと思います。あと、浜岡原発を止めればみんな安心できるし、地震が起きたとしても福島のように風評被害も起こらないようにするために、原発を止めた方がよいと思います。

「停止しない方がよい」グループ

- ・浜岡原発は止めない方がよいと思います。確かに、30年以内に大きな地震は起こるかもしれないけど、30年以内には安全対策はとれると思います。もし、安全を考えて止めたとしても大規模停電が起き、全国に大きな影響が及ぶおそれがあるので止めない方がよいと思います。

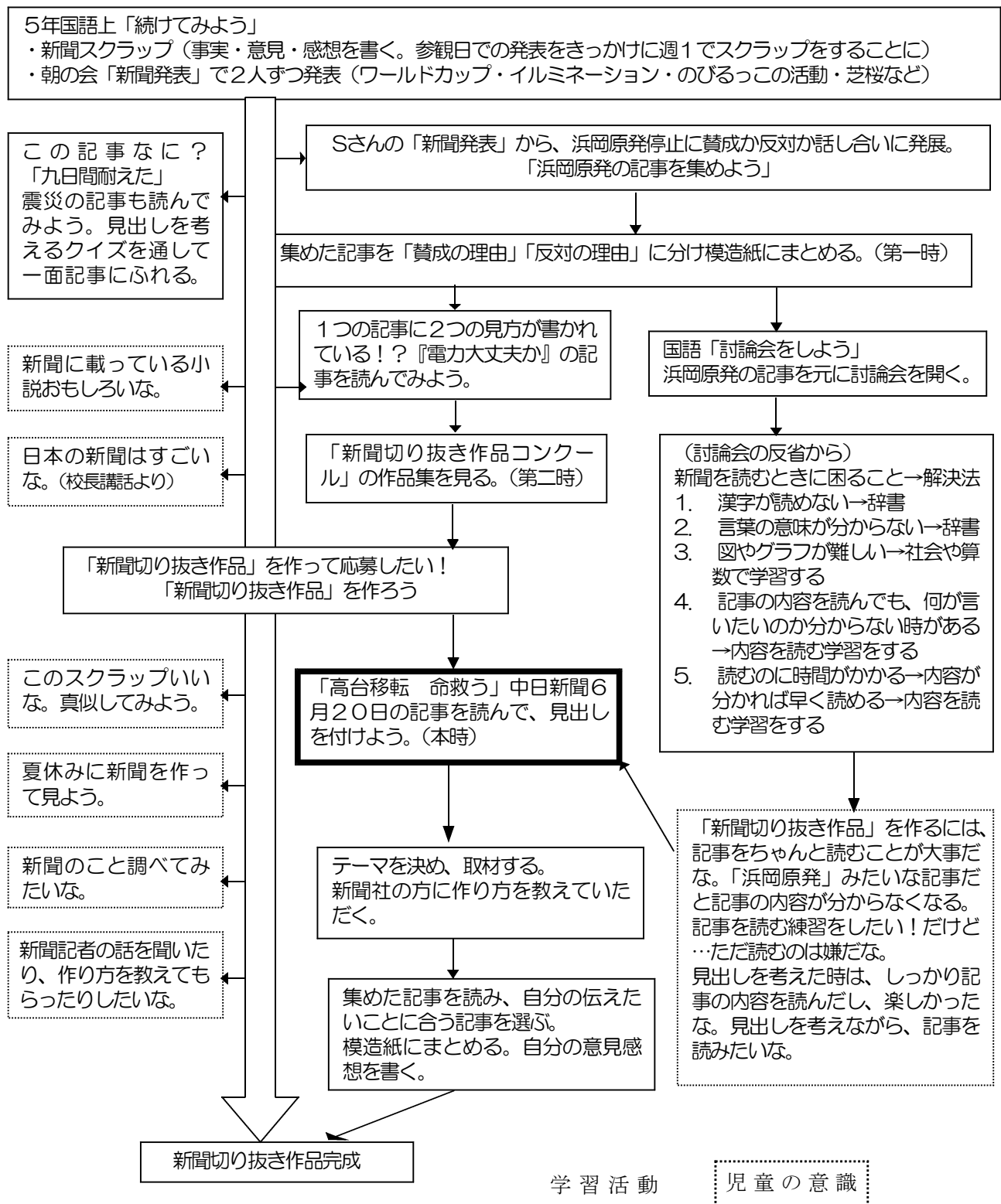
この討論を聞いた結果、聞くグループは「停止しない方がよい」グループの主張の方がより説得力があったと評価した。このことから、子どもたちは記事の内容をきちんととらえることができず、どちらかという質問に対する受け答えや発表の態度で判断したのではないかと考えられる。

⑥ 新聞切り抜き作品に興味をもった子どもたち

教師は、子どもたちに5年生から新聞の切り抜きを続けてきた成果を残せないかと考えていた。「浜岡原発は止めた方がよいか」を考える中で、浜岡原発について記事を集め、それを内容別に分け、見出しを工夫しながら模造紙に整理して貼る経験をした子どもたちに、「新聞切り抜き作品コンクール」の作品集を見せた。初めは字の細かさに驚いていたが、よく見ると新聞の記事がそのまま貼ってあることに気づき、「私たちがやってきたことに似ている」「おもしろそう」と言いはじめた。さらに、「これならできそう」「やってみたい」という前向きな声が上がった。そして、話し合いの結果「新聞切り抜き作品」を作り、コンクールに応募することになった。

(2) 単元展開の概要

○単元名 「新聞切り抜き作品を作ろう」



(3) 授業の実際

① 主眼

「新聞切り抜き作品」を作るためには、記事をちゃんと読むことが大切だと考えた子どもたちが、「高台移転命救う」の見出しを考える場面で、大事な文や言葉にラインを引きながら記事を読み、友だちと自分の読み取りの相違点を比較することを通して、記事の伝えたいことを読み取ることができる。

②子どもの姿

時間	発言者	内 容
10:50	当番 教師	起立、これから3時間目の授業を始めます。礼 前に浜岡原発について考えあったときに、新聞の記事を読むのがちょっと難しかったよね。難しい言葉なんかもあって調べるのも大変でした。そのときみんなからちょっと難しい記事も読めるようになりたいから練習したいっていう意見が出たよね。できればただ新聞を読むんじゃなくて、前にやった見出しの記事を読んで考えるのが楽しかったから、そんな風にして練習したいっていうことだったよね。(高台移転の記事を提示する)
	教師	今日はこの記事の見出しは何か考えてみましょう。
	教師	それじゃあ、どんなことに気をつけて、どんな風に読んでいけばいいかな？
	児童	大事だと思うところに線をつけながら読めばいいと思います。文だったり言葉に線を引けばいいと思います。
	教師	そうだったかな？(児童の多くはうなずく) そうだったよね。それだけだったかな？
	児童	みんなで相談しながら考えていきたいです。
	教師	グループで相談したいですか？(相談したいです)
	児童	まだ他にこんな風に読んだ方がいいなー、という意見ありますか。緊張している？
	教師	ハイ。このくらいでいいですか。(いいです。) じゃあ、今日の課題は、大事な文や言葉に線を引く、引いて、グループで相談して、見出しを考える。これでできるのかな。オーケー？(いいです)
	教師	では今日はまず、大事な言葉や文に線を引くということだったから、文だったらこんな風に引いたり、言葉だったらこんな風にだんだんって引いたり、文で引いた中で大事な言葉だなんて思ったらで囲ったりして読んでいこうねっていうことになりました。そんなことに気をつけながら読んでみて下さい。で今日はまず始めに一人ずつ読む時間を取ります。いい、一人ずつ。一人で読んだ後、グループ。
	教師	その後、グループの代表に発表してもらいます。代表が誰かは決まっています。では、プリントを配ります。
10:55	教師	まず名前を書いて下さい。じゃあもう考えようとしている人がいて、とてもいいなと思います。読みが難しいなと思う言葉とか、君たちの持っている辞書にも載ってなさそうな難しい言葉は下の所に載せてあります。ここに一つ載せるのを忘れてしまったんですけど、「口伝」という言葉が読んでいると出てくるんですけど、”くでん”と読むので、気をつけて読んで下さい。それでは10分間一人ずつ読む時間を取りたいと思います。それじゃ質問ありますか。大丈夫？ハイそれでは一人ずつ読んでみましょう。
	教師	(一人ずつ黙読) 最後まで読んで、ラインを引いてしまった人は、大事な言葉はどれかなって考えてみて。 (引き続き黙読、ラインを引く、キーワードを囲む)
11:15	教師 児童 教師	最後まで読めたよっていう人。 (大部分が手を挙げる) これからグループで相談をして見出しを考えていきたいと思います。で、一回り大きいこうゆうのを配るので、自分の今引いたプリントを見ながらどんどん書き込んでください。グループで線を引いた場所を出し合って、キーワードを見つけて、こここのところみんなのプリントには見出しは何でしょうって書いてあるけど、ここが白くなっているグループで最後決めた見出しをこここのところ書き込んでください。いいかな。で、最後だれが発表してくれるかはいつものように分かりませんので、誰でも発表ができるようにがんばってください。はい、では、グループの形になりましょう。ちょっと、広がってグループを作ってください。
	教師	さあ、どんどん話し合ってください。
C この辺みんな引いてる。 A 俺引いてないよ。 C えっ、この辺引いてるじゃん。 B A君が被ってない。 A 俺だけ被ってないじゃん。 B ほとんど被ってない。 A ほんとだ。信じられない。 B A君がここここここ引いてないんだよ。 A 俺この辺引いてんじゃん。 D 一人の意見に振り回されてもさ。ここを引いた人が多いわけだからさ。 C 全員が引いたところの方が当たる確率が多いわけだけど。 B ここは？ああ、引いてないか。 T 引いてないけどさ、ここの辺、キーワードを囲ってある人2人いるじゃん。何で引いたか理由ある？ D 決断したから。 T 何を決断したの？決断したって書いてあるから大事なんじゃないかな。A君はどうか？理由ある？		

		B 津波で多くの人が死んだから、同時の村長が山の上に移転することを決断したから。 T だって、どうする。 A 一応引いておく。 D あとは、どこ？ B この辺は？ D その辺は俺も引いた。 A 俺その辺引いてないや。 B 村長が高いところに移転しようと決断したじゃん。でも、30戸が残ったじゃん。それで17人が死んだんだから「17人」というのは大事だと思ったよ。 D そうだね。引いた方が良くないじゃない。 T だいたい引けてきたら、今度はキーワードから見出しを考えてね。 B 「再び高台」という所を引いた。 T なんで。 D 危ないから A 危ないから、僕も良いと思う。 T じゃあ引いてみ。 D 最後の方引いてある。 A あんまり引いてない。 D ここ引いてある人？（3人手が上がる） B 俺ここ引いた。 A 俺ここ引いた。 T そろそろ見出しがまとまると良いけど、難しい？ B 見出し考えられた人？ B 「多くの命が救われた」じゃないの？ A 「命が救われた」は入ると思うな。 T 見出し決まってきたところあるかな？
11:35	教師 当番	ハイじゃごめんなさい。一度おへそをこちらに向けてください。途中で良いです。一度、鉛筆を置いて前を向いてください。見出しが決まってきたところとまだの所があるので、またやるようにしたいと思います。それじゃとりあえず終わります。では挨拶。 立ってください。これで3時間目の授業を終わります。ありがとうございました。
授業後の休み時間		《2班の考えた見出し》 「多くの命が救われた吉浜」「教訓から得た命」「ほぼ無傷な集落（吉浜）」 《最終的につけた見出し》 「多くの命が救われた吉浜」

5 研究のまとめ

<成 果>

- ・NIEは社会を知ることだが、NIEを日々の授業改善の窓口として考えると良い。
- ・必ずしも仮説実証ではなく、子どもの目が輝いたのはどこか、子どもが停滞していたのはどこかが大切。教師は課題意識が大切である。
- ・領域は総合
 - ～新聞切り抜き作品をつくろう～を焦点にしながら、なんとか課題を解決しようとしている。その中で、もっと記事を読めるようになりたい→切り抜き作品を作るとき記事を読めるにはどうしたらいいか→見出しを考えながら読もう・・・というように、子どもの意識を大事にしながら進めているので、しっかり総合として位置づいている。
- ・切り抜き作品を作る上で一番大切なのは記事を分類できることだが、その力はもうついている。新聞という文章に馴染んでいた。
- ・本時良かったところを7点
 - ①子どもがすごい。この教室が大好きだと感じた。休みの子の席を向けてあげる子。自分の言葉でどんどん語れる子。
 - ②先生の姿が素晴らしい。はっきり、きっぱりしていてエネルギーがある。机間指導が素晴らしい。
 - ③導入が端的でよい。既習を生かし、子どもの言葉で書いた学習課題が良い。
 - ④目標がはっきりしていた。「グループ発表までいく」
 - ⑤学習カードの語注が良い。学習資料は大切。

⑥新聞を使った学習が日常化されている。継続することの素晴らしさ。

⑦研究の筋がすっきりしていて明確である。昨年度の姿から願う子どもの姿がある。

<課 題>

- ・事実を正確に伝える記事をストレートニュースという。今回の記事は連載であり、その現象にあらわれたことが分析的に整理されている。5W1Hのストレート文の方がより容易に取り組めた。一般記事はどの記事にもリード部がある。リード部＝段落で、記事のあらましが書いてある。強調のため、一面記事ではその段落がリード文となる。leading paragraph（第一段落）
- ・キーワードから見出しをつけられるか考えてみたが、ストレート文ならキーワードが絞られるので可能。しかし今回は、百行の記事で記者の訴えもあるので難しい。そもそもキーワードで見出しがつくか疑問である。見出しに正解はない。百人百様なので、まずは個人で見出しを付けてからの方が良い。簡単な素材を使い自分で見出しをつけ、最後に理由も共に発表するという授業を展開することで、記事選びやスクラップがしやすくなる。また、見出しの役割は読者にこの記事を読みたいと思わせること、記事の中身が分かることである。これを知ることと同様に、切り抜き作品をつくる上で大切なことある。
- ・国語的な読みにこだわることで、子どもの意識を大事にした豊かな学習が消えてしまうことは心配である。目指したいことは何か、この場面でどのように読み取れば、次の時間その子の学びが豊かになるかを大切にしたい。
- ・本時のように、追究がのびると見届けがない授業になる。途中で追究を切っても、今日の授業で分かったこと・疑問に思ったことを書かせるようにしたい。

6 残された問題

・伝えたいこと

子どもの姿より

① S児は移転という言葉キーワードを選び、「ここ大事、いるよね。」と語っていた。

・・・自分が読めるために S児にとって何が大事か分析しておく必要がある。

② 「線引過ぎだよ。」「でもいるよ。」という会話。

・・・どこからどこまで線をひくのか。

③ リード文から本文を読み、見出しを考えるという子どもたちの考えが収束していく授業であったが、見出しからどんな内容の記事なのかを考える授業も考えられたのではなかったか。

④ 教師の発問

「グループで相談して誰でも発表できるようにしてください。」「キーワードから見出しを考えましょう。」「見出しのまとめを始めてください。」

・・・この順番よりも、「ここに何が入ると思う？」ストレートにそう言った方が良い。

グループ活動が子どもにとっての考えと合っていない。

学習課題（大事な文に・・・）大事の意味が共通になっていない。学習課題を明確に。

・改善のための案

① グループ活動のさせ方の明確化

グループ活動の目的を明確にする。どんな状況で話し合うか。なんのためにやっているか。

② 学習問題から着眼点を明確にする。

着眼点「リード文と本文から重なる言葉を見つけて、見出しをつけよう」→追究→着眼したことに対してどうだったか見とどけをする。